

曲輪

曲輪くるわは、城内の平坦面を指します。地山を平らに削ったり、盛り土をして平坦な面を造る場合が多いです。城館を構成する空間の基本単位で、防御空間や儀式の場として配置されたと考えられており、その位置や範囲を理解することは、お城の機能を考えるうえで重要です。建物などが配置される場合もありますが、遺構が見当たらない、空き地のような平坦面もしばしば検出されます。河村新城においても、建物が見つかった曲輪は限定されており、曲輪ごとに機能が分かっていたことが考えられます。特にC 5曲輪は城山でも一番高い場所に位置し、建物が集中しています。



C 5曲輪（南から）

区画・防御施設

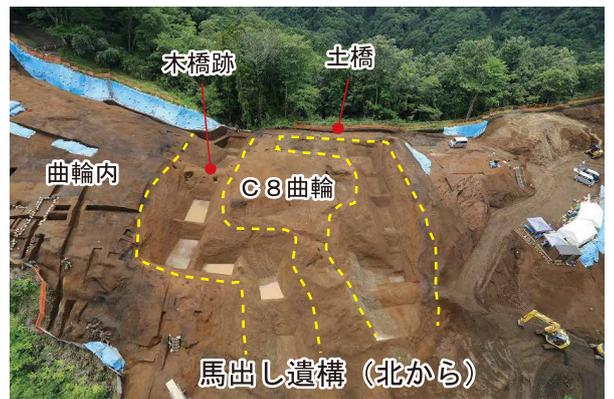
堀：お城には、堀切ほりきりや豎堀よこほりなど、様々な種類の堀があります。堀切とは尾根筋を切断した堀、豎堀とは、等高線に直行するかたちで斜面に掘られた堀をいいます。横堀は曲輪の周囲をとりまくようにめぐらした堀を指します。河村新城では、C 9堀が、堀切の端の部分延長したタイプの堀で、城外と城内を分けています。また、C 11堀のように曲輪の側面に沿って設置した横堀もみられます。馬出し：城の出入り口部分に設けた施設の一つです。曲輪の外側の土橋や木橋を渡った堀の対岸に設置された施設のことです。河村新城でもC 8曲輪、C 6・11堀によって区画された箇所が馬出しの特徴を示しています。



曲輪 C 11堀

建物

橋：堀を渡って城内に出入りするための施設です。土橋と木橋に分けられます。河村新城ではどちらも見つかります。門：曲輪の出入り口に設けられた施設です。身分や用途に応じて形態が異なっていたといわれています。河村新城では掘立柱で構成された門跡が見つかります。



馬出し遺構（北から）



橋跡 [C 9 掘立柱建物] (西から) 門跡 [C 8 掘立柱建物] (北から)

新東名高速道路建設事業に伴う発掘調査
河村新城跡（山北町 No.15）
2020年11月21日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
TEL: 045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp>


文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan
地域の特色ある
埋蔵文化財活用事業



今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています